

越田会長記者会見要旨

日 時：平成16年11月16日（火）午後3時～午後3時25分

場 所：フロンティア21記者会見場

出席者：越田会長、高橋副会長、渡辺専務

高橋副会長から自主規制会議の審議事項の概要について、渡辺専務から証券戦略会議の審議事項の概要について、説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

質問が二つある。まず一つめは、有価証券報告書の虚偽記載問題が、西武鉄道をはじめ複数の企業に広がり、ジャスダック上場の大出産業も虚偽記載問題が発覚したが、前回の会長会見で具体的な対策を打つ段階ではないと、発言されたと思うが、現在の考えを聞かせいただきたい。次に、大出産業が、登録取消基準に抵触する恐れのあるポストに指定されたが、具体的にどういふ点を重視して現在調査されているのか、また、判断の時期の見通しについて聞かせいただきたい。

（越田会長）

発行会社の情報開示の問題は、ご存知のとおり証券市場において、適時適切なディスクロージャーは最低限の責務であると思っている。投資家の自己責任も、会社のディスクロージャーが行われるからこそ投資家に求めることが出来るものであり、そのディスクロージャーが適切に行われないということは、証券市場の根底を揺るがす大きな問題であると思う。昨今の事例については、誠に遺憾であると言いたい。

特に、発行会社によりそのことが自覚されていないのであれば、そのような

企業はやはり公開するには馴染まない会社であると言わざるを得ない。

投資家へ適切に事実を開示することが、公開会社としての最低限守らなければならない義務であることを十分認識していただきたいと思う。

さて、今回、ジャスダック市場に上場している大出産業について同様の事件が発生したことは、誠に遺憾である。

市場管理者として非常に残念であると同時に、投資家へご迷惑をお掛けしたことは誠に申し訳なく、深くお詫びする次第である。

今後このようなことがないように、本協会としては9日付けでジャスダック市場全上場会社に対して、文書で開示の徹底及び株主管理の再確認を行わせていただいたところである。

なお、大出産業の調査に関しては、平成15年3月末からの一年間を通じて株主数が150名を上回っていないかどうかを確認しているところである。

今後、株式事務の状況、売買状況等、登録取消し基準逃れの実態を調査して、これらの状況が近々取りまとまる予定であるので、その内容を見て、登録取消等を検討することとしたいと考えている。ただ今の段階では取消しについて明言できる段階ではない。

以 上